

平成23年2月

松永知之 学位論文審査要旨

主査 紀川純三
副主査 村脇義和
同 池口正英

主論文

Increased B7-H1 and B7-H4 expressions on circulating monocytes and tumor-associated macrophages are involved in immune evasion in patients with gastric cancer

(胃癌において単球やマクロファージのB7-H1, B7-H4の発現上昇は、免疫逃避に関与する)

(著者：松永知之、齊藤博昭、池口正英)

平成23年 Yonago Acta medica 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌患者において、末梢血と胃癌組織に浸潤するマクロファージを分離し、B7-H1、B7-H4の発現頻度を検討し、その機能や発現方式を検討したものである。その結果、胃癌患者では健常人に比べて、末梢血単球や組織におけるマクロファージにおいてB7-H1、B7-H4の発現が有意に高値であり、B7-H1とB7-H4には有意な相関関係が認められた。また、B7-H4とHLA-DRには有意な相関関係が認められた。胃癌患者において、根治手術後患者では、B7-H4の発現は有意に低下していた。B7-H4陽性の単球とリンパ球を共培養したところ、B7-H4陽性ではB7-H4陰性に比べリンパ球の増殖が抑制されており、CD4T細胞のIFN- γ 産生を抑制した。単球を胃癌細胞株と共培養したところ、B7-H4の発現が認められた。本研究は、胃癌における免疫逃避機構の一端を解明し、明らかに学術水準を高めたものと認める。